

## 文学部通信教育課程

## 学部基礎情報

## 【理念・目的】(2018年度自己点検・評価報告書より)

文学部通信教育課程には日本文学科・史学科・地理学科の3学科が設置されており、文学部としての理念・目的の下でそれぞれの学科として通学課程(文学部)に準じた理念・目的を掲げるとともに、教育目標及び各種方針を定めている。

## &lt;日本文学科&gt;

日本文学科は、その創設以来培ってきた「自由と進歩」という大学建学の精神を体現する学風を維持し、日本の文学・言語・芸能の歴史と現状についての先鋭で多様な研究を進めるとともに、その成果を生かして、法政大学の伝統を担う「進取の気象」をもつ人材を育成することによって、千数百年にわたって蓄積されてきた日本語と日本文化の豊かな遺産を世界と次世代へと受け継いでいくことを目的とする。

## &lt;史学科&gt;

歴史学は史料(歴史資料)を集めて内容を解釈し、その史料分析を積み重ねて史実を捉え、その史実を体系化して歴史像を構築しようとする学問である。史学科(通信教育課程)では、史料に基づきながら歴史学の方法論を習得し、これによって過去から未来を理論的に見通せる思考力としての「歴史を見る眼」を持った人材を育成する。そのような「歴史を見る眼」は、歴史の中での自らの位置を客観的に見定め、次の一步をいかに踏み出すべきかを主体的に決断する力につながるものであり、「自由と進歩」「進取の気象」という法政大学の建学の精神を体現するかかる人材の育成を通して、史学科は広く社会に貢献していく。

## &lt;地理学科&gt;

欧米で「諸科学の母」と位置づけられる地理学は、現代ではまた、地球環境問題に深く関わる総合科学として高い評価を得ている。地理学が「旧くて新しい学問」と言われるゆえである。

人間が生活の場としているこの地球表面付近において生起する自然的・人文的諸事象を時間的・空間的な分布現象として捉え、それらに対して周辺諸科学と関わりながら、科学的な視点からアプローチを試みるのが「地理学」である。

本学科では、この総合科学としての「地理学」の学習を通して、現代社会において今後とも一層その存在が期待される「地理学」的な物の見方・考え方やその素養を獲得することによって、多様な社会に貢献できる有能な人材を育成する。

## 【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的(教育目標)】※学則別表(11)

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な教育目標を定めている。

## &lt;日本文学科&gt;

日本文学科は、その目的に基づいて、日本の文学・言語・芸能の歴史と現状を専門的に学び、国際化・情報化が進む21世紀社会において、自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成することを教育目標としている。より具体的に言えば、以下のような資質・能力を備えた人材を育成することを目標とする。

1. 日本文学の作品世界のみならず、現代の様々な事象を繊細に感受できる豊かな感性
2. その感性によって感受した様々な事象について、論理的に分析・考察する能力
3. その分析・考察の結果を独自の世界や思想を構築することに結びつけられる創造性
4. それら一連の成果を社会に向かって魅力的に発信していく表現力

## &lt;史学科&gt;

史学科(通信教育課程)では具体的な史料に基づいて歴史学の方法論を習得することによって、「歴史を見る眼」を持った社会人を育成すると同時に、歴史学への学問的関心を深めることを目標としている。歴史学研究の根本は、史料を活用した史実の解釈ないし体系化にあるが、こうした方法による史実の理解には、史料を博捜しその価値を判断する能力や、史料活用方法に対する学習および実践的な訓練が不可欠の課題となる。これらを総合的に学習することによって、現代社会、さらには未来への展望をも含めた人類史を、「歴史を見る眼」から判断することのできる人材を育成する。また、史学科における学習と実践的訓練の積み重ねが、さらに高度な専門的・自立的研究を進めるための基盤となるようにする。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

### <地理学科>

地理学科は、学科が提供するカリキュラムの下、以下に示すような人材を育成する。

1. 地理学の方法論を学ぶことによって地理学的視点から「地域の特性」を理解する能力を持った人材
2. 地理学的見方・考え方から得られた「地域の特性」を自ら社会に発信する意欲を持った人材
3. 目の前にある「社会的な問題」に対し、自ら率先して取り組み、解決する能力を持った人材

### 【ディプロマ・ポリシー】

文学部通信教育課程では学部理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めている。

### <日本文学科>

日本文学科は、建学の精神「自由と進歩」を体現する学風を維持し、日本の文学・言語・芸能の歴史と現状について専門的に学び、自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成するという教育目標を実現することを目指し、必要となる教育課程を編成する。その課程を修了した者に学士の学位が授与されるためには、以下の1~4の資質・能力を身につけていることが求められる。

1. 日本の文学・言語・芸能文化の歴史と現状についての基本的な知識
2. 自らの専門領域の基本文献を正確に把握することのできる読解力
3. 魅力ある研究対象を発見し、自らの力で調査・考究する思考力
4. 研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力

### <史学科>

史学科（通信教育課程）における教育は、学生が卒業するまでに以下のような見識・能力を修得していることを目標とする。

1. 国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識。
2. 史料の批判的考察から体系的理解に至る歴史学の分析方法を習得して思考力・判断力を培い、自主的・自立的に問題を発見・追究・検証する能力。
3. 通信学習による試験、レポート執筆、スクーリングによる対面授業、卒業論文指導等の訓練を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力。
4. 文化遺産の調査・保存を啓発し、また、次世代の教育に歴史学の成果を生かすことのできる能力。

### <地理学科>

地理学科は、地理学科のカリキュラムのもと所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認める。

1. 人間の生活の舞台である地球表層の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身につけている。
2. 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
3. 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる能力、地域社会のニーズにこたえられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

### 【カリキュラム・ポリシー】

文学部通信教育課程では学部理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

### <日本文学科>

日本文学科の教育課程は、その教育目標を実現するため、学位授与方針に即し、つぎのように編成される。すなわち、他学部・他学科と共通の基礎科目と専門科目によって構成し、特に日本文学科独自の専門科目において、その専門性を広く把握すると同時に深く追求するため、文学・言語・芸能文化の3コース制を（2013年度より）採用する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

文学コースでは、古代から近現代までの歴史的な見通しの中で日本文学について学び、さらに中国文学・沖縄文学なども視野に入れたうえで、特定の時代や特定の領域の文学を研究することを目指す。

言語コースでは、古典語の用法から現代日本語の変容までの広い領域で日本語について学び、方言・外国語と日本語の関係・理論言語学などの視点も理解した上で、特定の主題を通じて言語の本質を専門的に考察することを目指す。

芸能文化コースでは、各時代の芸能と、それらを育んできた歴史・宗教・文化について学び、日本の芸能文化の形成と展開を理解した上で、音楽・演劇や特定領域の日本文化に関して専門的に考察することを目指す。

3つのコースは必修科目と選択科目の組み合わせによって関係づけられており、学生は2・3年次以降いずれかのコースに籍を置いて学習を進める。4年次にはその研鑽の成果を発揮する卒業論文に取り組む。なお卒業論文は、日本文学科の教育課程における集大成と位置づけられる。

#### <史学科>

史学科（通信教育課程）のカリキュラムは、教育目標の達成をめざして、次のように体系的な構成を取っている。

1. 新入1年生に対して、学習の進め方やレポートの書き方に関する冊子を配付して、大学生としてふさわしい学習に適応できるよう指導する。
2. さらに1年生・2年生には幅広い歴史の勉強が必要であり、日本史・東洋史・西洋史それぞれに各時代別に概説の授業を設ける。
3. 2年生以降、歴史学の専門的教育に入る。専門的なテーマの講義を多数開講するとともに、学生は歴史資料学や演習科目の受講によって、専門的教育指導を受ける。
4. 4年生は教員の指導のもと、一つの研究課題に取り組み、卒業論文を作成する。卒業論文は学生の学業の集大成として位置づけられる。

#### <地理学科>

地理学科では、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. 幅広い知識や教養を涵養するため、教養課程の単位を卒業所要単位に含めている。
2. 地理学科の専門科目は、1年次では入門的な科目、2年次以降は地理学の様々な分野の基礎的知識を身につけるため各論科目が配置されている。また、3年次以降において、スクーリング科目が加わり、地理学の方法論や研究法を身に付ける、演習や実習科目が配置されている。
3. フィールドワークを通じて地域の実態を調査し、その結果をもとにレポートを作成することによって、調査技能、研究方法および文章表現能力を身に付けさせる「現地研究」がスクーリング必修科目の一つとして配置されている。
4. 課題を発見し検証していく思考力や表現力を涵養するため、「卒業論文」をカリキュラムの集大成として位置づけている。

#### 【アドミッション・ポリシー】

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を定めている。

#### <日本文学科>

日本文学科では、その目的に基づいた教育目標を達成するために、日本の文学・言語・芸能について関心をもつ者を広く受け入れる。ただし、通信教育課程においては、自宅で日本文学の専門的な学習ができるだけの国語の学力が不可欠である。その適性・能力等を見極めるために、書類審査を中心とする適切な入学選考を行う。加えて、通信教育課程が情報化の進む21世紀社会に対応して、生涯学習教育の担い手となっていることを考慮し、自宅学習を継続できる意志と主体的に学ぼうとする意欲も重要な選考基準とする。

#### <史学科>

史学科（通信教育課程）の入学受入れ方針は、その教育理念・目標に基づき、多様な資質・能力の可能性をもった学生の入学に期待をかけており、そのうえで歴史的な思考方法の習得を目指す意志のある者を通信教育課程の入学者として認めている。また、編入学・転入学も認めており、さまざまな経路から学生を集めているが、それは学生相互に良い影響を及ぼしており、今後もこの方針を継続する予定である。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

### ＜地理学科＞

地理学科は、書類審査を通して、以下に示すような能力・意欲等を有する者の入学を認める。

1. 高等学校で履修する国語、外国語、地理、歴史、公民、数学、理科等について、卒業が認められる水準で教科内容を理解している。
2. 入学後の修学・研究に必要とされる基礎的な知識・教養を有している
3. 論理的な思考ができ、自分の考えを明快に表現することができる
4. 地理学科の専門分野に深い関心を持ち、強い学習意欲がある

## I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

### 【2021年度大学評価結果総評】(参考)

文学部通信教育課程では、学習指導についてメディアスクーリングを導入した後、スクーリングを通じた学習指導を拡充し、卒業保留・留年、休・退学状況の改善も目標としながら模範レポートの提示や課題内容の再検討、新しい教科書・教材が導入されるなどの改善を学科が取り組んでいる点が評価できる。COVID-19 下で、ガイダンスやスクーリングをオンラインに切り替えて、補充しながら一部は冬期に移行するなどの対応を行ったことは高く評価できる。

文学部通信教育課程の特色は、卒業論文が必修科目となり学生の主体的な研究を指導していることである。優秀な卒業論文に対し、学科ごとに機関誌や大会で公表するよう指導していることは、学生のモチベーションを高め、学習成果を共有・把握することを促しており、高く評価される。アクティブラーニングや双方向型学習の拡充や成績分布の把握が検討されており、今後の成果が期待される。

教員負担の解決のため、通学・通信教育の両課程でのオンライン授業コンテンツを共有することや、2021年度から発足したリカレント・通信教育センターと協働し履修証明プログラムの活用を一層促進することなど、新たな方法を通じた問題解決が画策されている。今後の改善が期待される。

### 【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

本年度も昨年度に引き続き、各学科で卒業保留・留年、休・退学状況を把握してその対応策を検討し、カリキュラムの改正や教科書・教材の更新を行った。また、COVID-19の影響が続くなかで、ガイダンスやスクーリングの形態を必要に応じて変更することで、学生のモチベーションの維持と学習機会の確保に努めた。とくに地方スクーリングの代替として開講した週末スクーリングは、Zoomを用いたリアルタイムオンライン授業を実施することで、双方向型学習の拡充につながった。学生の学習意欲の向上と学習成果の共有・把握につながるとの評価をいただいた優秀卒業論文の公表も、継続していきたい。リカレント・通信教育センターと協働で履修証明プログラムの活用を推進する試みについては、2021年度第2回市ヶ谷コミュニティ連携会議で文学部長が提案を行い、検討を開始した。

他方で、通学課程と通信教育課程でオンライン授業コンテンツを共有することについては、メディアスクーリングの新規コンテンツ作成にかかる手当の問題や、両課程に所属する学生の経歴や修得済み知識の違いなども念頭に、課題点を洗い出しているところである。なお、メディアスクーリングでのコンテンツ作成については、例えば史学科から史資料の使用許諾取得やそれに伴う経費の請求に関する意見も出されており、慎重に検討する必要がある。以上の諸点も考慮しつつ、教員負担の軽減という根本的な課題の検討をさらに進めていきたい。

### 【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

文学部通信教育課程では、前年度からの課題である各学科での卒業保留・留年、休・退学状況の把握およびカリキュラム改正、教科書・教材の更新を行ってきた。重要課題に継続的に取り組む姿勢は評価できる。

また、COVID-19の影響が続くなかで、ガイダンスやスクーリングの形態の工夫など学生のモチベーションの維持と学習機会の確保にも努めている。とくに地方スクーリングの代替として開講した週末スクーリングは双方向型学習の拡充策として高く評価できる。リカレント・通信教育センターと協働で履修証明プログラムの活用を推進する試みについての検討に、今後も継続して取り組むことが期待される。他方で、通学課程と通信教育課程でのオンライン授業コンテンツの共有化については、諸課題の洗い出しが着手されているが、今後の検討の加速が望まれる。

## II 自己点検・評価

### 1 理念・目的

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。  
 学部・学科における理念・目的の適切性の検証は、教授会が通信教育学務委員会の審議を踏まえて実施を決定し、各学科の学科会議において実施し、その内容を教授会・通信教育学務委員会において承認するというプロセスをとることを原則としている。  
 なお、検証の時期については固定化されていない。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
毎年度、年度初めに教授会・教学改革委員会にて「理念・目的」の点検を呼びかけ、各学科で点検を始め、教学改革委員会、教授会と、複数のステップを経て確認を行っている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし。

【理念・目的の評価】

文学部通信教育課程では、学部の理念と目的を踏まえ、3 学科がそれぞれ理念・目的を設定し、教育目標や方針を定めている。理念・目的の検証は、教授会が通信教育学務委員会の審議を踏まえて実施を決定し、各学科の学科会議において実施され、その内容を教授会・通信教育学務委員会において承認するというプロセスを経て行われている。理念・目的は学則に明示されており、法政大学ホームページにも掲げられて、教職員・学生および社会に対して公表・周知されている。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい

【2021 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・通信教育課程の質保証に関する活動は、通学課程と共同で行っている。
- ・文学部質保証委員会の構成……各学科より委員1名が選出され、計6名で構成される。また、執行部（学部長・教授会主任・教授会副主任）がオブザーバーとして毎回、出席する。
- ・第1回委員会：2021年10月13日。議題、①2021年度大学評価報告書の報告。②2021年度質保証委員会活動の検討。
- ・第2回委員会：2022年1月19日。議題、①2021年度の教学上の工夫や取り組みに関する各学科からの報告。②学生アンケート調査結果についての意見交換。
- ・第3回委員会：2022年2月25日。議題、①自己点検・評価シートの年度末報告。②2022年度の質保証委員会・委員長の選出。③2022年度文学部質保証委員会の役割。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。 **新規**

※取り組みの概要を記入。

2020年度文学部質保証委員会においては、オンラインを用いた教育の取り組みが報告され、それがアクティブ・ラーニングや双方向型授業の拡充により影響を与える可能性が指摘された。

2021年度文学部質保証委員会でも、通信教育課程への直接的な言及はされなかったものの、オンライン授業への取り組みや問題点が多角的に検討されており、通信教育の現状と今後を考えるうえで重要な指摘がなされた。

これら質保証委員会での情報交換の結果は、文学部定例教授会にて報告された。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度第10回文学部定例教授会資料13「2020年度質保証委員会報告」
- ・2021年度第11回文学部定例教授会資料6「2021年度文学部質保証委員会活動報告」

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・文学部では2020年度質保証委員会からCOVID-19への各学科の取り組みをまとめるとともに情報共有を図っており、2021年度以降の対応を考えるために役立てることができた。
- ・年度当初の質保証活動を円滑に進めるため、前年度のうちに新旧委員が出席して自己点検スケジュールについて確認するなどの対応をとっている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし。

【内部質保証の評価】

文学部通信教育課程の質保証に関する活動は、通学課程の質保証委員会と共同で行われており、教授会執行部同席のもと、文学部全体で問題の共有ならびに教育質保証の検討がなされ、一定の活動が行われている。年度当初の質保証活動の円滑化のために新旧委員が出席する体制もとられている。

2021年度の委員会の開催は3回、活発な活動が図られている。2020年度質保証委員会から継続して2021年度もCOVID-19への各学科の取り組みと課題をまとめるとともに情報共有を図りつつ、各学科より持ち寄られたオンライン・ハイフレックス形式の授業での問題点、および対策について具体的な検討を行っている点は大いに評価できる。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・教育目標 (<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/tsukyo.html>)
- ・学位授与方針 ([http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/tsukyo.html](http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html))
- ・教育課程の編成・実施方針 ([http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku\\_katei/tsukyo.html](http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/tsukyo.html))
- ・『史学科のしおり』（通教用学科手引き書）第4版、2019年
- ・地理学科サイト ([https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page\\_id=1332](https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332))

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

2018年度3.2③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

学部・学科における教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証は、教授会が通信教育学務委員会の審議を踏まえて実施を決定し、各学科の学科会議において実施し、その内容を教授会・通信教育学務委員会において承認するというプロセスをとることを原則としている。

なお、検証の時期については固定化されていないが、2021年度については、2021年4月から5月にかけて実施した。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度第1回教学改革委員会議事録、同配付資料「各学部の教育目標、各ポリシー修正・公開スケジュールについて（報告）」

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021年度1.1①に対応

S： さらに改善することができた

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

各学科とも教育課程の編成・実施方針にもとづき、適切な教育課程・教育内容を提供している。すなわち、専門教育課程では学科の専門領域に関する基礎的な知識の涵養から、具体的な研究テーマに対する深い考察まで、幅広くかつバランスよく学べる教育課程を設けている。また、卒業論文を必修とし、研究の成果を的確に文章化する力や、自ら課題を設定して主体的に研究する力の育成を重視している点も、学科共通の教育課程の特徴としてあげることができる。加えて、3学科とも教員免許状取得に必要な教育課程を編成している（地理学科ではさらに測量士補の資格取得が可能である）。一方、専門教育課程に加え、一般教育・外国語・保健体育から成る教養課程を設け、幅広い教養と視野を身につけることにも力を入れている。通信教育課程の各科目は通信科目・スクーリング科目として開講されており、学生の置かれた環境と各科目形態の利点を踏まえた、効果的な学修が可能となるよう配慮されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

なお、上記以外の各学科の教育課程・教育内容の特徴は以下のとおりである。

【日本文学科】

「日本文芸学概論」「日本語学概論」等の必修科目に加え、「日本文芸研究特講」16科目から成る選択必修科目を通じて、日本文学・日本語学の各領域を学び、「中国文芸史」「日本芸能史」「日本美術史」等の選択科目を通じて、日本文学に隣接する諸分野についても学べる教育課程となっている。文学・言語・芸能文化の3コース制を取り、卒業論文までの道のりを3つのモデルコースとして示している点も特徴である。

【史学科】

「日本史概説」「東洋史概説」「西洋史概説」「史学概論」を必修科目とし、専門科目の学習段階の初期に広く歴史学にアプローチする機会を設けている。また、このうち「史学概論」を除く概説3科目と「史学演習」をスクーリング選択必修科目としている。選択科目は、歴史学の諸分野を幅広く学ぶ機会を設けるため、各分野から1科目以上50単位の修得を定めている日本史・東洋史・西洋史の各分野の科目群や、「日本考古学」「歴史資料学」等から成り立っている。

【地理学科】

「人文地理学概論(1)」「自然地理学概論(1)」「地理調査法(人文編)」「地理調査法(自然編)」を必修科目とし、基礎的な知識と調査方法を学ぶ場を設けている。また、スクーリング必修科目として「現地研究」等を設け、実地の調査にも力を入れている。選択必修科目では、人文地理、自然地理、地誌・その他の各分野より2科目8単位以上履修するものとし、選択科目では歴史学や経済学等に関わる科目群を配当し、幅広い分野をバランスよく学習することができる教育課程を構築している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

各学科の学科会議においてカリキュラムの検討を行った。その結果、科目名称の変更等の方式により、以下のとおりの改正が行われ、2021年度からのカリキュラムの充実化を図ることができた。

- ・史学科「日本史特講(社会史)」の新設

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・『学習のしおり』
- ・史学科カリキュラムマップ  
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-map.pdf?date=20200220>)
- ・史学科カリキュラムツリー  
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-tree.pdf?date=20200220>)
- ・2021年度第7回文学部定例教授会議事録

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度1.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

通学課程と同様に、各学科とも、カリキュラムの順次性を意識し、年次ごとの科目配置を適切に行っている。すなわち、教養課程の諸科目を1年次より履修可能とし、大学生として必要な幅広い知識の習得を促している。一方、専門教育課程では1年次に概論を中心に配置し、年次進行に即してより高度な科目を配置し、4年次の卒業論文につなげている。

なお、各学科のカリキュラムの順次性・体系性の特徴は以下のとおりである。

【日本文学科】

必修科目では、「日本文芸学概論」「日本語学概論」を1年次より、「文学概論」「日本文芸史Ⅰ・Ⅱ」を2年次より履修可能としている。選択必修科目では、「日本文芸研究特講」6科目を1年次より履修可能とし、学生が興味・関心に合った科目を早期に履修できることとしている。「日本文芸研究特講」10科目は2年次以降の配当とし、さらに選択科目の諸科目は2年次ないし3年次以降の配当とする。なお、1年次より「論文作成基礎講座Ⅰ・Ⅱ」を開設し、レポート・論文の作成に必要な文献検索、文章技法に特化した教育も行っている。

【史学科】

必修科目では、「日本史概説」を1年次より、「東洋史概説」「西洋史概説」「史学概論」を2年次より履修可能としている。選択科目では「日本考古学」「歴史資料学」等を2年次より、その他の科目を3年次より履修可能としている。各科目は、概説・概論系、講義系、特講系、演習系、実習系と、専門性に応じた段階的設定とし、順次性と体系性を重視した

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。



カリキュラムを構築している。なお、日本史・東洋史・西洋史の3分野が開講されているスクーリング選択必修科目「史学演習」は専門性が高いため、同分野の概説科目の単位を修得済みであることを受講資格としている。

【地理学科】

必修科目では、「人文地理学概論（1）」「自然地理学概論（1）」「地理調査法（人文編）」「地理調査法（自然編）」を1年次より履修可能としている。選択必修科目の科目群は人文地理、自然地理、地誌・その他の各分野に分かれ、2年次ないし3年次より履修可能としている。学生はこれらの科目の履修を通じて各分野の知識を幅広く習得し、3年次にはスクーリング必修科目「現地研究（人文）」「現地研究（自然）」等を通じて、現場でしか得られない知識・技能の習得に力を入れる。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・年度初めに『学習のしおり』を学生へ送付し、単位修得、教材、カリキュラム、学習システム等の詳細を通知している。
- ・通信学習科目については、年度初めに『通信学習シラバス・設題総覧』を学生へ送付し、テキスト、シラバス、レポート課題、単位修得試験の出題範囲を明示し、履修にあたっての参考情報を提供している。
- ・スクーリング科目については、毎月『法政通信』を学生へ送付し、シラバスを明示し、履修にあたっての参考情報を提供している。
- ・毎年度4月・10月に「初学者向け事務ガイダンス」を実施し、通信教育部の学習の仕組み全般について周知を行っている（ただし、2021年度は中止となったため、今後のあり方を検討する必要がある）。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』『法政通信』（シラバスは「webシラバス（講義概要）」でも公開）
- ・<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

S： さらに改善することができた

※取り組み概要を記入。

通常の学習指導は学習ガイダンスの形式をとり、教員・職員・卒業生によって行われている。その種類と時期は以下のとおりである。

- ・初学者向け事務ガイダンス（4月、10月）
- ・卒業生による学習体験の講演＋卒業生個別相談（5月、11月）
- ・各学科担当教員による、学習活動方法の講演（6月、12月）

※ただし、2021年度は中止となったため、今後のあり方を検討する必要がある。なお、卒業生による学習体験の講演＋卒業生個別相談については、11月のみ実施した。

また、通信教育課程の特性を生かし、学習質疑制度（郵便）を通じて、科目担当教員による学習指導が行われているほか、Web通信学習相談制度を通じて、通信学習相談員（卒業生）による学習指導も行われている。

一方、スクーリング期間中には、オフィス・アワーと授業の前後の時間を通じて、教員による学習指導が行われている。特に、地理学科の「現地研究」は2泊3日で行われるため、学習指導の重要な機会となっている。また、メディアスクーリングでは、ディスカッション機能・質疑応答機能を通じ、科目担当教員による学習指導が行われている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

卒業論文の執筆にあたっては、夏期および冬期スクーリング期間中に一般指導が行われている。また、日本文学科では1次指導（文書）、2次指導（面接）、史学科・地理学科では1次指導（文書）、2次指導（面接）、3次指導（文書）が担当教員により行われている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
COVID-19対策として、地理学科では、「現地研究」を実施する際、2週間前からの健康記録表の提出、72時間以内のPCR検査等での陰性確認、参加当日の検温を行っている。また、宿泊を伴う場合は、個室を原則とし、大人数の会食を行わず、貸切バス等の定員にも配慮している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> <li>『学習のしおり』『法政通信』</li> <li>https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</li> <li>https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/graduation-thesis/</li> <li>2021年度「現地研究」新型コロナウイルス感染症対策について</li> </ul>

3.4③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018年度3.4③に対応

はい
【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。
1年間に49単位（学期ごと、学年ごとの上限は設定されていない）。
【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。
中学校・高等学校教育職員、司書、司書教諭及び社会教育主事を志望する者は、学部学科の専門教育科目の他にそれぞれ定められた授業科目の単位を修得しなければならない。上記に定める科目は49単位を超えて履修でき、この場合において、1年間に履修できる単位数の上限は、原則として60単位と定めている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・「法政大学通信教育部学則」第4章 教育課程（年間履修単位の上限）第30条、（教職課程及び資格課程）第28条の2

3.4④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4④に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。
・通信教育課程主任（地理学科では学科内で選出されたシラバスチェック委員）によるシラバス第三者チェックの実施、および学科内・教授会への報告。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・2021年度第8回教学改革委員会議事録、2021年度第8回文学部定例教授会議事録、同配付資料「2022年度シラバス第三者チェックの実施について（依頼）」

3.4⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑤に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。
<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング科目については、「学生による授業改善アンケート」による確認を実施。</li> <li>スクーリング科目については、教員個々において、リアクションペーパー等を通じて学生の理解にもとづく、授業の適切な進行を心がけている。</li> <li>在学生アンケートの実施。</li> </ul> そのほか、学科における固有の取り組みは以下のとおりである。
【史学科】
<ul style="list-style-type: none"> <li>学科内の各専任教員は、割り当てられている複数の科目の科目担当として、それらの科目の実際の指導教員と適宜連絡を取り、毎月定例の学科会議において報告や問題提起を行うこととしており、またそれを受けて審議することとしている。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>【地理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリング科目「現地研究」については、履修者に対して学科独自アンケートを実施し、その結果を学科会議において確認している。</li> </ul>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="https://ceportal.hosei.ac.jp/campusweb/top.do">https://ceportal.hosei.ac.jp/campusweb/top.do</a></li> </ul>

3.4⑥通信教育課程では、通常教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。2021年度1.2③に対応

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>通信教育課程では通信学習科目、メディアスクーリング科目の授業実施自体は、COVID-19 の影響を受けることはなかった。スクーリング科目については、感染防止の観点から、夜間開講の通学課程の乗り入れ科目を除き、原則としてオンラインで実施した。また、オンライン授業の場合、日本全国どこからでも参加可能であるため、従来の地方スクーリング等の短期集中のスクーリングは実施せず、オンラインで週末 6 日間のスクーリングを年 4 回実施することとした。さらに、学生との双方向性を確保し、より教育効果を高めるため、オンライン授業は原則として Zoom 等によるリアルタイム配信型によるものとした。</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育学務委員会資料（第 2・4 回学務委員会議事録）。</li> </ul>

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学共通の成績評価基準を教員・学生へ周知し、各教員はそれにもとづき、成績評価を行っている。</li> <li>・学科会議において、各学生の卒業時の成績を確認している。</li> <li>・成績評価と単位認定において問題が生じた際には、学科会議で検討している。また、必要に応じて兼任講師とも連携をとり、問題の解決にあたる体制を整えている。</li> </ul>
<p>【地理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文については、複数の教員で面接問を行い、そのうえで成績評価・単位認定を全教員で行い、その適切性を確認している。</li> </ul>
<p>【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>特になし。</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『学習のしおり』</li> </ul>

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

<p>はい</p>
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級の状況については、毎年度、9 月と 3 月の学科会議と教授会で確認のうえ、承認している。</li> <li>・成績分布については、GPCA 集計表を各学科により個々の教員が確認できる状態になっている。</li> </ul>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度第 4・5・8・10 回文学部定例教授会議事録</li> </ul>

3.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度1.4②

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

文学部では、各学科の専門分野における研究方法の習得と、それにもなう課題発見・解決力、思考力、調査力、また、それらを説得力をもって発信するための文章力を有する学生に対し、学位を授与する方針をとっている。そのため、「卒業論文」を必修科目とし、論文に必要な要件を定め、その評価を通じ学習成果を測定している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『学習のしおり』

3.6③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度1.4③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。

各学科とも、学習成果の把握・測定は卒業論文審査を通じて行っている。卒業論文面接試験を行ったあと、学科でその内容を評議し、優秀な論文については各学科において、以下のように公表を行っている。

【日本文学科】

指導教員による推薦を経て、法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』に掲載している。

【史学科】

指導教員による推薦を経て、法政大学史学会の機関誌『法政史学』に掲載している。

【地理学科】

法政大学地理学会による「法政大学地理学術大会」での口頭発表や同学会の機関誌『法政地理』への掲載を積極的に行うよう指導している。また、例年3月に開催される全国地理学専攻学生「卒業論文発表大会」（日本地理教育学会主催）において、法政大学地理学科通信教育課程学生代表として発表するよう指導している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『日本文学誌要』（法政大学国文学会）
- ・『法政史学』（法政大学史学会）
- ・『新地理』（日本地理教育学会）
- ・日本地理教育学会ウェブサイト (<http://www.geoedu.jp/>)
- ・『法政地理』（法政大学地理学会）
- ・『学会ニュース』（法政大学地理学会）
- ・法政大学地理学会ウェブサイト (<http://www.chiri.info/>)

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・学部および各学科のPDCAサイクルが円滑に機能し、カリキュラムの点検を不断に行い、教育改善に努めている。
- ・各学科とも学内学会、機関誌を有し、通信教育課程に所属する学生の成果も積極的に発表している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してく

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

ださい。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・ COVID-19 下での履修指導・学習指導のあり方の検討。

### 【教育課程・学習成果の評価】

#### <①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

文学部通信教育課程では、学位授与方針は、修得すべき学習成果や、その達成のための諸要件が明示されている。学位を授与するために設定された教育課程の編成・実施方針も適切である。学部理念・目的に基づいて定められた3学科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針はいずれもホームページなどに公表されている。

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性や関連性の検証は、教授会が通信教育学務委員会の審議を踏まえて実施を決定し、各学科の学科会議において実施し、その内容を教授会・通信教育学務委員会において承認するというプロセスをとることを原則としている。検証の時期については固定化されていないものの、2021年度においては、4月から5月にかけて実施しており、適切に実施されている。

#### <②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

文学部通信教育課程では、教育課程の編成・実施方針にもとづき適切な教育課程・教育内容を提供している。専門教育課程では卒業論文を必修とし、研究の成果を的確に文章化する力や、自ら課題を設定して主体的に研究する力の育成を重視している点も、特徴としてあげることができる。その他にも3学科とも教員免許状取得に必要な教育課程を編成しているほか、教養課程を設け、幅広い教養と視野を身につけることにも力を入れている。2021年度は各学科の学科会議においてカリキュラムの検討を行い、史学科において「日本史特講（社会史）」を新設し、カリキュラムの充実化を図った点は高く評価できる。

#### <③教育方法に関すること (3.4) >

文学部通信教育課程における履修指導については、『学習のしおり』や『通信学習シラバス・設題総覧』や『法政通信』を送付することで、履修にあたっての参考情報を提供している。また、毎年4月と10月には「初学者向け事務ガイダンス」を実施し、学習の仕組み全般について周知を行っている。ただし、「初学者向け事務ガイダンス」は、2021年度は中止となっており、今後の開催の方法について検討が期待される。

学習指導については、通常は教員・職員・卒業生により学習ガイダンスの形式で行われている。また、通信教育課程の特性を生かして、学習質疑制度（郵便）を通じて科目担当教員による学習指導やWeb通信学習相談制度を通じて、通信学習相談員（卒業生）による学習相談が行われている。スクーリング期間中にはオフィス・アワーと授業の前後の時間を活用して教員による学習指導が行われるほか、メディアスクーリングでは、ディスカッション機能・質疑応答機能を通じ科目担当教員が学習指導を行っている。また、2泊3日の日程で実施される、地理学科の「現地研究」では、2週間前から健康記録表の提出、72時間以内のPCR検査での陰性確認、参加当日の検温などきめ細かな配慮のもと実施しており、高く評価できる。

通信教育課程では通信学習科目、メディアスクーリング科目の授業実施自体は、COVID-19の影響を受けることはなかったが、スクーリング科目については、感染防止の観点から、夜間開講の通学課程の乗り入れ科目を除き、原則としてオンラインで実施された。Zoom等によるリアルタイム配信型の授業で、どこまで従来のスクーリングの効果を代替しえたのか。今後の継続に向けて検証が望まれる。

#### <④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.6) >

文学部通信教育課程では、成績評価基準は教員および学生に周知され、学科会議において卒業時の成績を確認している。学科会議は成績評価と単位認定において問題が生じた時も、必要に応じて兼任教員とも連携を取りながら問題の解決にあっている。特に地理学科では、卒業論文に関しては複数の教員で面接試問を行ったうえで、成績評価・単位認定を全教員で確認しており、適切である。

進級の状況については、毎年度、9月と3月の学科会議と教授会で確認のうえ、承認している。成績分布については、GPCA集計表を各学科により個々の教員が確認できる状態になっている。

分野の特性に応じた学習成果を測定するために、卒業論文を必修科目としている。また、学習成果の把握と測定は、卒業論文審査を通じて行っている。また、優秀な論文については学内の学会機関紙に掲載するなどの対応をとっている。学内の学会や機関誌を有し、通信教育課程に所属する学生の成果も積極的に発表している点は高く評価できる。

## 4 学生の受け入れ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018年度4.1①に対応

はい

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.2①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

入学者数および在籍者数は上昇傾向が見られるようになったが、文学部通信教育課程3学科は、定員の超過・未充足について、なおカリキュラム改革や広報活動をするなど、各学科でそれぞれ以下のような努力を行っている。

【日本文学科】

定員の充足のあり方に関しては通信教育課程全体に関わる大きな問題である。日本文学科でも定員の未充足については、認識しており、問題点を明確化し、改革を進め、2013年度から新カリキュラム（文学・言語・芸能文化のコース制、通信教育部生に対する通学課程夜間時間帯授業の開放、スクーリングの拡充）を実施し、努力している。

【史学科】

入学定員の未充足状況について、また中途退学・除籍の問題については、社会人学生や生涯学習志向の中老年の学生が多いという通信教育部の特性から考えると、経済状況など社会のさまざまな影響が考えられ、学科としての努力にも限界があるという見方もある。しかし、教職員一体となって広報活動に努めている。たとえば、入学説明会における教員による講演や模擬授業を通じた魅力のアピール、広報媒体を通じた生涯学習の意義、在宅あるいは学内での自習の利便性のアピール、週末や連休を利用した連続3日間のスクーリングにおいて1科目・1学期分の単位修得ができるという魅力のアピール、さらに卒業生の大学に対するメッセージのアピールなどの施策を取っている。

成績不良あるいは履修不良により一定年数を超過して在学する学生については、通信教育部事務部より配布された資料によって学科会議においてこれを把握し、当該学生に学習計画書を提出させるという措置を講じている。

【地理学科】

新規入学者数、在籍者数は長期にわたって減少傾向にある。地理学科単独での対応には限界があるが、通信教育部全体の対策とともに学科としての対応も検討していく。現行カリキュラムの問題点を再検討してカリキュラムの一層の充実をはかり、それを学外へ発信するよう今後とも試みていく。通信制教育の実施大学において、地理学科は本学以外に存在しないことを再発信する方法もまた、事務部とともに再検討する必要がある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・『法政大学通信教育部入学案内』

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.3①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.3①に対応

S：さらに改善することができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

【日本文学科】

- ・学生募集および入学者選抜の結果については、学科会議で定期的に検証している。
- ・志望理由書の様式（設問や字数等）についても、学科会議で検討し、記述すべき内容を明確化するよう設問の文言を修正した。
- ・2013年度から設けた課題図書リストの内容に関しても、随時検討を行っている。

【史学科】

・年度内に7回行われる通読判定と称される入学志願書の審査による合否判定作業は、専任教員が毎回持ち回りでこれを行い、そのつど判定結果・講評を学科会議において行うこととしている。その上で、問題や改善策等についても適宜審議することとしている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>・学務委員会における通信教育部全体の関係資料を学科において閲覧し、情報共有するようにしている。</p> <p>【地理学科】</p> <p>・入学志望書を通信教育主任が通読し、能力と意欲があるか否か判定している。</p> <p>・通信教育主任が判定結果を学科会議で報告し、全教員で判定結果について確認・検証している。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>各学科の学科会議において「志願書2」の検証を行い、その効果を確認した。その結果、より適切な学生の受入れにつながるように、2022年度学生募集において日本文学科の「志願書2」の文言を一部変更することとし、2021年度第4回教授会において承認された。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>・通信教育学務委員会資料</p> <p>・2021年度第4回文学部定例教授会議事録</p>

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>毎年「志願書2」の内容を検証し、不断の改革に取り組んでいる。</p>

## (3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<p>特になし。</p>

## 【学生の受け入れの評価】

文学部通信教育課程においては、アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）に、求める学生像や修得しておくべき知識等の内容や水準が明示され、その方針設定は適切である。学生募集・選抜制度・選抜体制も適切に維持され、厳正で公正な入試が実施されているものと評価できる。

入試経路ごとの学生の成績を確認して定員枠の見直しを行うなど、丁寧な定員管理がなされているが、Covid-19の影響下での受験生の動向の変化もあり、入学者の過少・超過に対する対応に苦心を重ねていることがうかがえる。入学定員の充足状況についての情報は教授会で共有されているとのことだが、今後のさらなる検討と対応を期待したい。

## 5 教員・教員組織

### (1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1①に対応

<p>【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。</p>
<p>・文学部として、通信教育部を有する日本文学科、史学科、地理学科の3学科を通教関連3学科と総称し、その各学科の通信教育課程主任は、通信教育部が主催する毎月定例の学務委員会の構成員として通信教育部全体に関わる事項を審議し、所属する各学科において、および文学部執行部との連絡・調整にあたることとなっている。さらに、文学部執行部が主催する通教関連学科連絡会議、学科主任会議、さらに拡大教学改革委員会における通学課程との共通議題にいずれも出席し、審議する一員となっており、また所属学科との連絡・調整を担当している。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学部教授会においては、通教関連議題について、上記3学科の通信教育課程主任の代表1名が通年で、発議・説明・報告等を担当している。代表1名は、1年ごとの担当学科交代制による。さらに、3学科それぞれの発議、説明、報告等については、各通信教育課程主任がこれを担当している。</li> <li>・上記3学科においては、各通信教育課程主任が、通信教育部事務部と所属学科あるいは他学科および学部執行部との連絡・調整を担当している。</li> </ul>
【明示方法】※箇条書きで記入。
・「法政大学通信教育部学則」「通信教育学務委員会規程」において明示。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・「法政大学通信教育部学則」「通信教育学務委員会規程」

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい
<p>※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>文学部通信教育課程では、学位授与方針、カリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしている。関連3学科それぞれが通教主任を配置し、通教学務委員会および各学科会議の場で話し合い、教育課程に相応しい教員組織の整備に努めている。このように、質的には体制は整っているものの、教員の過重負担が問題となっている。</p> <p>【日本文学科】</p> <p>2013年度から、それ以前の文学・言語の分野を中心としたカリキュラムに芸能文化の分野を新たに加えたカリキュラムになった。これは在籍教員の研究分野を十分に考慮した上での変更ということもあり、新カリキュラム運営においても相応しい教員組織となっている。さらに、2014年度0.5枠増の人事（文学コース担当）を実現でき、指導分野を拡充させた。そして、文学12名・言語2名・芸能文化2名の専任教員に加え、高い専門性を有する兼任教員の協力を得ることで、適切な体制でもって教育にあたっている。</p> <p>【史学科】</p> <p>日本史・東洋史・西洋史の3分野において原始・古代から近現代史まで、また地域史あるいは地域間交流、さらに政治・経済・文化といった領域など、分野・時代・地域・領域を幅広くカバーするように努めている。学生の多様な学びの志向を想定し、専任教員のみでは対応困難なものにおいては、大学および学部、学科において定められた人事上の手続きを経て、適切な兼任（非常勤）講師を採用して対応するようにし、カリキュラムと教員組織との整合性に努めている。</p> <p>【地理学科】</p> <p>総合科目としての地理学の領域を担当できるよう、自然地理学、人文地理学それぞれの専門分野のバランスに留意した教員組織になっており、また優秀な人材を内外から兼任・兼任教員として確保している。したがってカリキュラムに則った教員組織が整備されている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
----

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。



通信教育を専門に担当する専任教員がおらず、十分な教育を行うにはマンパワーが足りていないことが課題である。

**【教員・教員組織の評価】**

文学部通信教育課程では、日本文学科・史学科・地理学科それぞれにおかれている通信教育課程主任が毎月定例の全学学務委員会に出席し、通信教育にかかわる事項を審議している。通信教育課程の議題は学部内では通教関連学科連絡会議、学科主任会議、拡大教学改革委員会で適切に審議され、教員間の役割分担や責任の所在は明白である。これらは「法政大学通信教育部学則」ならびに「通信教育学務委員会規程」に明示されている。また教員組織は専任教員と兼任・兼任教員が補完しあいながら、大学・学部・学科が定める教員像や教員組織の編制方針、カリキュラムとも整合性が取れており、専門分野のバランスに留意した適切な体制で教育が展開されている。このように、質的には体制は整っているものの、教員の過重負担が問題となっている。通信教育を十分に行うに必要なマンパワーの検証が望まれる。

**6 学生支援**

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。</p> <p>・卒業・卒業保留・留年者・休・退学者の状況については、通信教育部事務局より通信教育課程主任を介して配布された資料によって学科会議において点検、確認の作業と承認の決定を行うこととしている。その後年度末あるいは毎月の文学部教授会において、点検、確認、承認の報告を行うこととしている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2021年度第1回～第11回文学部定例教授会議事録</p>

6.1②学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
<p>※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。</p> <p>主に各学科の通信教育課程主任が、学生の生活相談を受け付け、必要な助言を与えるほか、学内の関連部局と連携して課題の解決に当たっている。各学科では必要に応じて学科会議で課題の共有を図り、解決に向けて協力している。また、障がい、LGBTQIA などに関わる課題については、執行部も関与し、学内部局との調整を図り、対応を行っている。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし。</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
障がいや有する学生が不正行為等の問題を起こした際、学生の個別事情を勘案しながら、きめ細やかな対応をしている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

内容
特になし。

### 【学生支援の評価】

文学部通信教育課程の卒業・卒業保留・留年者・休・退学者の状況については、通信教育部事務局より通信教育課程主任を介して配布された資料によって学科会議において点検、確認の作業と承認を行うこととしている。その後年度末あるいは毎月の文学部教授会において、点検、確認、承認の報告を行うこととしている。

主に各学科の通信教育課程主任が、学生の生活相談を受け付け、必要な助言を与えるほか、学内の関連部局と連携して課題の解決に当たっている。各学科では必要に応じて学科会議で課題の共有を図り、解決に向けて協力している。また、障がい、LGBTQIA などに関わる課題については、執行部も関与し、学内部局との調整を図り、対応を行っている。

## 7 教育研究等環境

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

##### 7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーターなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018年度7.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。

- ・実習系の科目においてTAを配置している。2021年度の専門科目における実績は以下のとおりである。  
地理学科4科目
- ・地理学科主催科目「現地研究」(2科目)においては、現地研究補助員を配置している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2021年度第2・3・6回文学部定例教授会議事録

##### 7.1②通信教育課程として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

※取り組みの概要を記入。

スクーリング科目について、感染防止の観点から、夜間開講の通学課程の乗り入れ科目を除き、原則としてオンラインで実施した。また、オンライン授業の場合、日本全国どこからでも参加可能であるため、従来の地方スクーリング等の短期集中のスクーリングは実施せず、オンラインで週末6日間のスクーリングを年4回実施することとした。さらに、学生との双方向性を確保し、より教育効果を高めるため、オンライン授業は原則としてZoom等によるリアルタイム配信型によるものとした。

また、地理学科では、「現地研究」を実施する際、2週間前からの健康記録表の提出、72時間以内のPCR検査等での陰性確認、参加当日の検温を行っている。また、宿泊を伴う場合は、個室を原則とし、大人数の会食を行わず、貸切バス等の定員にも配慮している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育学務委員会資料(第2・4回学務委員会議事録)。
- ・2021年度「現地研究」新型コロナウイルス感染症対策について

### (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

内容
COVID-19 下で、受講生の健康に留意しながら柔軟に授業形態を変更し、学習機会を確保することに努めている。対面型の科目を実施する際には、綿密な対策を施し、感染対策を徹底している。また、通信教育への社会的期待が高まるなかで、ポスト・コロナ時代の通信教育のあり方について自主的に検討している。

### (3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし。

### 【教育研究等環境の評価】

文学部通信教育課程では、実習系の科目、具体的には 2021 年度の地理学科 4 科目において TA が配置され、地理学科主催科目「現地研究」(2 科目)において現地研究補助員が配置された。

また COVID-19 下で、受講生の健康に留意しながら柔軟に授業形態を変更し、学習機会を確保することに努めている。対面型の科目を実施する際には、綿密な対策を施し、感染対策を徹底している。

## 8 社会貢献・社会連携

### (1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 8.1①に

対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

#### 【日本文学科】

- ・学科教員の社会活動の概要……東京書籍(株)教科書編集委員、日本私立大学連盟教学担当理事者会議幹事(小秋元)、新沖縄文学賞・大阪女性文芸賞・農民文学賞・韓国文学翻訳コンクールの選考委員、文芸家協会常務理事、日本近代文学館評議員、K-Books 振興会代表理事、文化庁文化審議会著作権分科会委員(以上、中沢)、上野学園大学日本音楽史研究所特別研究員(ネルソン)、山梨県立文学館専門委員(中丸)
- ・学科教員による市民向け講座等の実施件数 2 件(3 名)
- ・その他……教員免許更新講習(小秋元・中丸)

#### 【史学科】

- ・中国の龍門石窟、復旦大学文物與博物館学系、少林寺と学術協定を締結し、学生の国際性の涵養に努めている。
- ・学科教員による市民向け講座等の実施 2 件

#### 【地理学科】

- ・学科教員の社会活動の概要……愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員(伊藤)、横須賀市環境審議会委員(山口)、八王子市環境審議会委員(山口)、流山市環境審議会委員(山口)、千代田区ヒートアイランド対策見直し検討会委員(山口)
- ・学科教員による市民向け講座等の実施件数 2 件(2 名)

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

### (2) 長所・特色

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし。

**(3) 課題・問題点**

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし。

**【社会貢献・社会連携の評価】**

文学部通信教育課程では、多くの教員が多種多様な分野で社会連携・社会貢献に関する活発な取り組みを行っており、複数回にわたる継続的な活動も見受けられる。しかしながら通信教育課程独自の教育・研究の推進に資する取り組みや社会貢献活動は行われていない。社会的なニーズが高まっている生涯教育の観点からも、より積極的な活動が期待される。

**9 大学運営・財務**

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①通信教育学務委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度 9.1

①に対応

はい
※概要を記入。
「法政大学通信教育部学則」「通信教育学務委員会規程」にしたがって、通信教育課程主任を置き、通信教育学務委員会を設置して、権限や責任を明確化するとともに、規程に則った運営を行っている。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
・「法政大学通信教育部学則」「通信教育学務委員会規程」

**(2) 長所・特色**

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし。

**(3) 課題・問題点**

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし。

**【大学運営・財務の評価】**

文学部通信教育課程では、「法政大学通信教育部学則」「通信教育学務委員会規程」にしたがって、通信教育課程主任を置き、通信教育学務委員会を設置して、権限や責任を明確化するとともに、規程に則った運営を行っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

## Ⅲ 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。	
	年度目標	各学科において、カリキュラム、教育内容（初年次教育を含む）について検証し、必要に応じて改編を行う。	
	達成指標	カリキュラム、教育内容を検証するための学科会議を開催する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	各学科の学科会議において、カリキュラム、教育内容を検証した。その結果、史学科のカリキュラムの一部改正を行い、「日本史特講（社会史）」を新設することが第8回教授会において承認された。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	各学科において、カリキュラム・教育内容について検証し、カリキュラムの改正等を行っており、目標は達成されている。		
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、スクーリング科目におけるアクティブ・ラーニング、双方向型授業等のさらなる導入を図る。	
	年度目標	学生を対象に、アクティブ・ラーニングや双方向型授業の効果・要望を聴き取り、教員間で情報を共有する。	
	達成指標	教授会において情報共有の機会を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	在学生アンケートを実施し、3月の教授会において情報共有の機会を設けた。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	教授会において在学生アンケートの結果を情報共有しており、目標は達成されている。		
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、卒業論文以外の科目における学習成果の測定方法について検討を深め、点検・評価活動へ活用する。	
	年度目標	初年次教育を対象に、「学習成果の測定」に関する事例、課題について情報を共有する。	
	達成指標	教授会において情報共有の機会を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	教授会では情報共有の機会を設けられなかったが、学科単位で（例：史学科の特別学科会議・日本文学科のFDミーティング）、初年次教育授業の学習成果の測定方法や、成績評価基準等について検討と情報共有を行った。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	学科によっては、初年次教育に関する学習成果の測定方法や成績評価基準等について検討がなされていたが、教授会において情報共有の機会が設けられておらず、目標は達成されて		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

			いない。	
	改善のための提言		教授会において、各学科での取り組みについて情報共有することが求められる。	
No	評価基準		学生の受け入れ	
4	中期目標		各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。	
	年度目標		専門分野に対する関心と、大学での学習に意欲をもつ学生をより適切に受け入れるために、出願時に提出を求める「志願書2」の課題設定の検証を行い、必要に応じて修正を施す。	
	達成指標		学科会議において左記の検証・審議を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		各学科の学科会議において、「志願書2」の検証を行い、その効果を確認した。その結果、第4回教授会において、2022年度学生募集において日本文学科の「志願書2」の文言を一部変更することを決定した。
		改善策		—
質保証委員会による点検・評価				
所見			各学科において、「志願書2」の検証を行い、日本文学科では「志願書2」の文言の変更を行うこととなり、より適切な学生の受け入れにつながると考えられ、評価に値する。	
改善のための提言		—		
No	評価基準		教員・教員組織	
5	中期目標		各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。	
	年度目標		年齢、国際性等の観点で教員組織の現状を検証し、さらなる多様性の追求を図る。	
	達成指標		人事委員会において左記を検証し、各学科の新規採用人事に向けた情報を提供する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		教授会の専任教員採用人事を審議する場において、採用候補者について性別等の観点から活発な議論を行った。
		改善策		—
質保証委員会による点検・評価				
所見			教授会の専任教員採用人事を審議する場において多様性の観点から議論したことは評価できるが、本報告書において、年度目標や達成指標に対応した記載がない。	
改善のための提言		年度目標・達成指標の観点から記載することを望む。		
No	評価基準		学生支援	
6	中期目標		卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況をこれまでどおり適切に把握したうえで、卒業保留・留年、休・退学の減少に向けた課題を精査し、教育上の取り組みに反映させる。	
	年度目標		前年度、通信教育部事務部の協力を得て行った、卒業保留・留年、休・退学への対応策を実施に移す。	
	達成指標		通教関連学科連絡会議を開催し、左記について実施報告を行う場を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		4月7日に通教関連学科連絡会議を開催して、それぞれの情報を確認する手順について確認した。さらに、昨年度に引き続き、史学科ではカリキュラム改正を行い、魅力ある「日本史特講（社会史）」を新設した。
		改善策		—

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

	質保証委員会による点検・評価		
	所見	通教関連学科連絡会議において、卒業保留・留年、休・退学への対応策を確認する手順については確認しているが、実施報告は行われておらず、目標は達成されていない。	
	改善のための提言	学科によっては、卒業保留・留年、休・退学への対応策としてカリキュラム改正などによる対応を行っているが、学科間の情報共有の観点からも通教関連学科連絡会議を開催し、実施報告を行うことを望む。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。	
	年度目標	社会人へ学習の機会を広げる方策として、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用を他学部と連携して検討する。	
	達成指標	市ヶ谷コミュニティ連携会議において、学部長が左記の必要性を指摘し、検討の俎上に載せるようにする。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	5月20日の第2回市ヶ谷コミュニティ連携会議において、学部長が通信教育部等の生涯教育における学部間の連携協力の検討を提案した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		市ヶ谷コミュニティ連携会議において、通信教育課程の学部間の連携協力を提案し、年度目標は達成されている。	
改善のための提言	—		
<p><b>【重点目標】</b>          社会人へ学習の機会を広げる方策として、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用を他学部と連携して検討する。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>          リカレント・通信教育センターと協働し、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用をいっそう推進する。また、市ヶ谷コミュニティ連携会議において、学部長が左記の必要性を指摘し、検討の俎上に載せるよう働きかける。</p> <p><b>【年度目標達成状況総括】</b>          市ヶ谷コミュニティ連携協議会において、生涯教育についても学部間の連携協力を提案し、他学部の一部からも同様の意見があったことは評価されうるものとする。カリキュラムや学習成果に関しては、各学科で検討を続けており、新科目の設置を行ったことや、学習成果に特化した会議が開かれていることも特筆されると言えよう。また、学生の受け入れについても、これまでの「志願書2」に対する検証の結果、日本文学科において来年度からの一部変更が決定されたことも評価に値する。</p>			

**【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】**

<p>市ヶ谷コミュニティ連携協議会において、生涯教育についても学部間の連携協力を提案し、他学部の一部からも同様の意見があったことは評価されうるものとする。カリキュラムや学習成果に関しては、各学科で検討を続けており、新科目の設置を行ったことや、学習成果に特化した会議が開かれていることも特筆される。また、学生の受け入れについても、これまでの「志願書2」に対する検証の結果、日本文学科において来年度からの一部変更が決定されたことも評価に値する。</p> <p>引き続き、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用を他学部と連携して検討することを継続し、通信教育課程のカリキュラムの履修証明プログラムへの活用をいっそう推進することを期待したい。</p>
---

**IV 2022年度中期目標・年度目標**

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた、B: 改善することができなかった。」を意味する。

		時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
	年度目標	MDAP（数理・データサイエンス・AI プログラム）リテラシーレベル科目の通信教育課程カリキュラムにおける位置づけおよび活用方法について検討する。
	達成指標	MDAP（数理・データサイエンス・AI プログラム）リテラシーレベル科目の通信教育課程カリキュラムへの取り入れに関し、(2022 年度の暫定的な「総合特講」としての扱いに続く) 2023 年度以降の運用を定めるための学則改定を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
	年度目標	メディアスクーリングと通学課程授業との間で共有できる教材のあり方および授業方法について検討する。
	達成指標	各学科と連絡をとりつつ、通信教育関係学部長会議においてメディアスクーリングの教材作成等について議論し、教授会に報告する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。
	年度目標	レポート評価点の成績への反映方法について、現行以外の取り扱いが望ましいと言える科目の有無について検討する。
	達成指標	各学科の意見をもとに通教関連学科連絡会議において議論し、教授会に報告する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
	年度目標	出願時に提出を求める「志願書 2」について、近年変更した学科についてはその効果の検証を始め、それ以外の学科については変更の必要性について引き続き検討する。
	達成指標	それぞれ学科会議において議論し、その結果を教授会において報告する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
	年度目標	専任教員の新規採用に際しては、将来に予想される教員構成を勘案しつつ、適切に人選する。
	達成指標	人事委員会および教授会において、教員構成の現状分析と将来構想を加味しながら、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
	年度目標	スクーリング科目の種類や時期等について、学生から意見聴取するための環境を整備する。
	達成指標	通学課程で行われている学生モニター制度を通信教育課程にも導入することを、通教関連学科連絡会議において検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
	年度目標	通信教育がなし得る社会貢献として何が望まれているか、社会人でもある学生から意見を求める。
	達成指標	「学生支援」のために整備をめざす学生モニター制度などを利用して学生の意見を聴取する。
<p><b>【重点目標】</b> スクーリング科目の種類や時期等について、学生から意見聴取するための環境を整備する。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた、B: 改善することができなかった。」を意味する。



学生モニター制度の利用を通信教育課程においても申請し、それを実施する。

**【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

2022 年度の重点目標として、学生支援をスクーリング科目の種類や時期等について、学生から意見聴取するための環境を整備することが設定されているが、学生モニター制度の利用を通信教育課程においても申請し、それを実施されることを期待する。

**【大学評価総評】**

文学部通信教育課程は、個々の学生の興味・関心に応える教育組織として意欲的な目標を設定し、それらを実現するためにさまざまな企画・立案がなされていることは高く評価できる。各学科とも大 学教育の質を維持しながらそれぞれの目的に沿って合理的に運営されているが、相互に連携しながら 全体としての統合には継続的な努力が望まれる。

また、2022 年度学生支援の中期目標として、通信教育に学ぶ者として、学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆくとあるが、このことが今後の定員の未充足状況に対して有効な試みとなることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。